

平成 2 5 年度学校評価

本年度の重点目標	①学ぶ姿勢と確かな学力を身につけさせ、進路希望の実現を図る。 ②部活動、生徒会活動、学校行事の一層の活性化を目指す。 ③基本的な生活習慣を確立させるとともに、規範意識の醸成を図る。 ④地域、PTA等との連携を強化する。		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務部	①学校安全の確立 ②PTA活動の活性化	①防災に対する意識の高揚を目指し、実践的な防災避難訓練を企画立案する。 ②PTA委員の選出方法を見直し、専門委員会活動を充実させる。	①初動活動班の編制を教職員の異動や担当分掌の変更を考慮して見直しした。実践的な防災避難訓練について最適な実施時期と内容を検討中である。 ②「PTA活動アンケート」を12月中旬に実施した結果多くの回答を提出していただいた。(回収率95%) 現在のPTA活動に対する満足度は「満足」と「やや満足」を合わせて96%で、「やや不満」以下は4%で、ほぼ満足されている方がほとんどであった。 「PTA総会」の出席者は学年を経るにつれて、減少している。これは、総会の内容が、資料を参照すればわかることが多く、内容に変化や魅力が少ないからではないかと思われる。 「研修旅行」、「大学見学会」などの行事は、参加者が少ないものの、参加された方の満足度は高い値を示していた。 PTA新聞(「伊勢木」年2回発行)や総会資料などを発行しているが、PTA活動の内容が十分理解されていないことも分かった。PTA活動に興味関心を持っていただける資料の工夫に努めたい。 PTA委員の選出については、今年度からの方法(立候補制と抽選による方法)に対して、84%の支持が得られたので、来年度に生かしていきたい。
教務部	校務支援システムの検討	①本校に合うように初期設定をする。 ②導入に向けて試行運用する。 ③メリットとデメリットをあげる。	①初期データの入力はデータ量が膨大なことと、運用にかかわる重要事項も含まれており時間がかかってすべてを入力できなかった。 ②試行運用には至らなかった。 ③校務支援システムヘルプデスク提供のFAQにより、本校の実態と大きくかわることをあげた。
生徒指導部	①基本的な生活習慣の確立(遅刻防止) ②身だしなみ指導の徹底、事後指導基準の見直し(校外での意識向上) ③交通安全意識・登校マナーの向上 ④学校指定品、指定業者の見直し(値上げに対応)	①8時35分に教室へ入室、5分前登校の継続指導、遅刻過多生徒への指導強化。 ②身だしなみ指導、事後指導、登校指導、交通安全指導時の校門指導を継続して実施。校外指導時の事後指導期間の延長、校外での指導機会の増加。年度当初に「生徒指導に関する確認事項」を全職員に配付し、指導内容・方法の確認。 ③交通安全指導への生徒参加、地域へのアピール。PTA合同指導時に保護者のたすき利用、自転車登録・点検時に交通安全指導の徹底。 ④校章、生徒手帳、遠足、制服マーク、カーディガンの素材・価格の見直しをする。	評価基準について ①4月～12月の遅刻指数(0.27)遅刻総数261件(昨年同時期307件)で良好である。8時35分前に校門通過するよう声掛けを行い、5回を超えた生徒には8時10分～8時35分まであいさつ運動を3日間実施させた。現時点で該当生徒6名。 ②年6回実施している「身だしなみ指導」時の頭髮指導件数は減少し、事後指導期間の短縮が図られた。身だしなみの指導件数は昨年よりも減少した。校外での見だしなみ不備の生徒が一部に見られ、今後も継続的な指導が必要である。 ③各学期に自転車点検を実施し、また、年16回実施予定の交通安全指導においても、教員・生徒・保護者の連携がとれた。交通事故報告書20件。交通マナーについて外部からの指摘が数件あった。 ④スリッパ、カーディガン、制服指定店の見直しは是非について今後も検討。
進路指導部	自己理解と適切な職業観に基づく進路決定	①LTおよび総合的な学習の時間での進路指導と進路行事との関連性を深めるための方策を工夫する。 ②長期休業中のインターンシップを紹介する。	①進路行事の際には事前にワークシートを配布、終了後回収して担任がHRでの指導に活用できるようにしている。 ②夏季休業中の普通科2年生対象のインターンシップにおいては金融機関、官公庁などが受け入れ先となった。続いて3月7日には製造業の職場体験を実施予定である。また、次年度の実施に向けて新たな受け入れ先の選定に入っている。
保健厚生部	健康の自己管理能力の育成	①保健委員会を毎月開催し、「保健だより」の発行を行う。 ②保健室利用者数を調査し、昨年と比較する。 ③保健室利用者の「生活習慣および食生活について」の調査を行う。 ④スクールカウンセラーを、有効活用する。	①保健委員会の開催及び「保健だより」の月1回発行により、生徒の健康管理能力向上につなげた。 ②保健室利用者数は、前年度と比較して内科22%減、外科1%減であり、健康に関する自主管理の向上がみられた。 ③保健室利用者に「生活習慣および食生活について」の調査を行った結果、日常的に朝食をとらない生徒の割合が比較的多かった。今後とも個別に指導をしていきたい。 ④スクールカウンセリングを年間10回行い、生徒、保護者、教員が利用した。カウンセラーからの情報や助言により、組織的に生徒の支援ができた。今後も保護者及び生徒へカウンセリングの周知徹底を図り、有効活用していきたい。
図書情報部	図書館活動の活性化	①1年生に図書オリエンテーションを行い、図書館利用の充実を図る。 ②新着図書の情報を紹介しながら、行事や時期に応じた図書の話題を提供する。 ③ホームページを充実させる。	①1年生は図書オリエンテーションを機に貸し出し数が増加し、1～3年生全体本年度(4/1～1/10)の貸出冊数は1,850冊であった。昨年比では15%程の減少であるが、過去5年間の比較では499冊～859冊増加となっている。 ②図書委員が、毎月図書館の展示を考え、行事や時期にあわせた環境づくりを行い、来館する生徒に好評であった。図書館だよりは、新着図書の情報を紹介しながら年間11回発行できた。 ③ホームページは昨年度の反省を検討し、外部の業者と検討を重ね、11月末日にリニューアルを行った。また、速やかな更新を心がけ、1月中旬までに20回の更新を行うことができた。
生徒会部	生徒会活動のさらなる活性化	①学校祭の表彰規定等を見直すことで、各企画や体育大会応援の「質の向上」を図る。 ②1年生が主体となる学校祭実行委員会の活動開始時期を早めることで、いっそうの自主的・自発的活動を促すとともに、生徒会活動の年度を越えた継続性を高める。	①各クラスの代表と先生方の投票により、最優秀賞・優秀賞2・特別賞2の計5企画を表彰した。「優秀企画を表彰すること」について生徒の反応は概ね良好であった(アンケート結果による)。 ①体育大会で応援を得意化することの効果は期待した程ではなかった。ブロックの組織へ「応援担当」を作らせるなど、工夫を加えることを次年度の課題としたい。 ②有志実行委員8名(1年生6名・2年生2名)と執行部6名の14名で4月下旬から計画的に活動できた。学校祭成功への貢献大であったと考える。ただ組織が大きくなったためか、情報の伝達・共有に齟齬が生じることもあった。委員会内に統括的役職を設けるなど、見直しをしていきたい。 ②実行委員のうち5名が後期の生徒会役員となり、次年度の概要を決める段階から反省を活かすことが可能となった。本年度、実行委員を経験した1年生の生徒達が、次年度は指導的立場で、再度、委員として活躍できるようにきめ細やかな指導も継続していきたい。
生活文化科	全国高等学校家庭クラブ研究発表大会に向けて、発表準備及び今後のOHC(学校家庭クラブ)活動の充実	①全国大会に向けて研究成果をまとめ、発表練習を行う。 ②地域連携を図りながら、引き続き玉ねぎの普及活動を充実させる。 ③昨年度商品化した玉ねぎジャムを消費者ニーズに合わせるなど、さらに良いものにするための研究を重ね、改良した新商品の販売を行う。	①生徒達は発表練習に熱心に取り組んだ。研究大会では全国第3位である新潟県教育委員会賞を受賞することができた。 ②大府市のあきんどフェスティバルなどに参加し、地元との連携を図るほか、全国産業教育フェアへも参加した。生徒達は大きなイベントの企画や裏方など、多方面から運営に関わることができ、よい体験ができた。本校としても学校紹介を広く発信することができた。 ③糖度を抑え、ラベルを一新した玉ねぎジャムは、全国産業教育フェアなどで販売し、好評であった。
第一学年	基本的な生活習慣と学習習慣の確立	①時間・規律を守り、コミュニケーションの第一歩である挨拶を気持ちよくすることができる集団を育成する。 ②授業を真剣に受けることのできる環境を整え、家庭学習の習慣を身につけさせる。 ③提出物を期限までに提出させる。 ④保護者との連絡を密にし、情報交換を心がける。	①8時35分教室入室は、ほぼ定着している。 ②成績不振者には次の考査前に指導をした。また、追考査対象者への補充授業をしっかりと行い、ほぼ合格できた。 ③提出物も学年団の教員の指導により、状況は良い。 ④各担任が適宜、保護者に電話連絡をし、必要に応じて来校していただき、情報交換できた。
第二学年	進路目標の設定と学習習慣の定着	①LTや総合的な学習の時間を利用し、生徒の適性に合った進路目標を設定させる。 ②週末課題を定期的に与えることに加え、長期休業中の課題やGW課題など時期に応じて適切な課題を与え、学習習慣の定着を図る。	①面談や保護者会を通して生徒の進路目標を明確にさせ、目標達成のため各自に必要な具体的な方策を考えさせた。合同LTでは進路実現のための取り組みをいくつか紹介し動機付けへの刺激になった。 ②各教科が工夫して粘り強く指導し、週末課題への取り組みや学習習慣が身に付きつつある。
第三学年	希望進路の実現	①面接指導などを通して、希望進路を的確に把握する。 ②希望の進路に進むことができるよう、学力をつけさせる。 ③学年団と進路指導部と連携して、最新の進路情報の提供に努める。	①保護者会の時間を有効に活用し、生徒の希望する進路先を保護者と共に把握することができた。 ②夏季セミナーで学習習慣が定着し、冬季セミナーにおいてはさらに各自が集中し、意欲的に勉強できる環境を作り、学力の向上に努めることができた。 ③進路の情報が学年団に的確に発信されているので生徒への対応が迅速であった。そのかきもあって、就職希望者・看護希望者ともに進路実現がほぼ可能となった。
総合評価	①学習面においては教科担任とクラス担任が連携して粘り強く指導を行うとともに、授業以外にも週末課題、補習、夏季・冬季セミナー、土曜日学習会などの学習の機会を整備し、学力の向上・進路実現に努めた。 ②部活動では、弓道部とソフトテニス部が全国大会出場を果たすとともに、多くの部活動が県大会に出場するなど好成績を収めた。また、学校行事等を通して生徒会執行部や実行委員が中心となって企画・運営に携わることで、リーダーとしての資質も育まれている。 ③年間を通しての身だしなみ指導や交通安全指導、登校指導などの徹底した生徒指導により、生徒は落ち着いた学校生活を送っている。遅刻者数も年々減少傾向にある。 ④今年度は学校家庭クラブ員が中心となって高大連携や地域連携を行い、外部とのつながりを持てたことは学科の活性化につながった。また、PTA専門委員会の事業もPTAの協力を得て活発な活動となった。		